

【別紙様式 = 中学校用】

都道府県番号	18
都道府県名	福井県

【 】

*重点をおいた観点にチェックすること

I. 学校名及び規模

学校名	上中町立上中中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	0	9	22
生徒数	98	82	101	0	281	

II. 研究の概要

(1) 研究主題

確かな学力を持ち、生きる力を備えた生徒の育成

(2) 研究主題設定の趣旨

個々の生徒の能力を伸ばすための指導法の研究...国語，数学，理科，社会，英語
 本校の生徒の実態としては，低学力生徒の比率がどの学年とも多い。その原因としては，基本的な生活習慣，学習習慣が身につけていないこと，基礎基本の事項が身につけておらず学習に対する意欲もないことなどがあげられる。また，自分の生き方に関する考えが刹那的で，将来を見据えて今の自分の生き方を考えることができない生徒の数も少なくない。このような実態から，生徒一人一人の発達段階，習熟の程度に合わせ，学習内容・学習の機会を提供することにより，個々の生徒の能力を伸ばし，それぞれが，将来において自己実現を図ることができることを目指して，国語，社会，数学，理科，英語の各教科で研究実践にあたる。

以下の4点を，各教科共通の研究項目とする。

- 単元別評価の実施
- 指導方法の改善
- 低学力生徒の指導の充実，能力のある生徒の指導の充実
- 小中高の連携

習熟度別編成クラスによる学習指導...英語（2・3年生），数学（2年生）
 この二つの教科は，生徒の理解の状況に差が出やすい。個々の生徒の習熟の状態に応じて，学習内容を工夫し，生徒一人一人の学力を向上させるために，習熟度別編成クラスによる学習指導の研究実践を行う。

III. 研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫

研究組織

- ◆ 研究推進委員会（校長・教頭・教務・研究主任・各部長）
- ◆ 研究部A
 - 教科指導研究部—各教科部会 構成...教科主任会
- ◆ 研究部B
 - 学級活動研究部（学級経営，学級活動，道徳，総合的な学習の時間他）
 - 調査分析部（調査・分析・提言・インフラ整備）
- ◆ 研究部C

- 生徒指導部
- 生徒会
- 読書活動推進部
- 情報教育推進部

研究体制上の工夫

- 研究組織は、実践面に力をいれるため、昨年度の組織を大幅に変更、一新した。
- 教科指導研究部—各教科部会を、研究推進のための中心となる部会と位置づけた。
- 研究部 B には、学級活動研究部と調査分析部を置き、全職員の半数ずつを各部会の所属とした。
- 研究部 C には、本校の校務分掌上の組織も研究組織に組み入れた。教科面の指導からだけではなく、学校の教育活動全てを通して学力充実をめざす体制を取った。

研究推進の基本方針

研究の方針

- ⇒ 理論と実践の両立をはかる。特に今年度は授業実践に力を入れる。
- ⇒ 具体的な達成目標を設定し結果を求める実践とする。
- ⇒ 全職員の共通理解と協力した実践で全生徒の力を伸ばすという意識を持つ。
- ⇒ 研究発表を最終的な目標とせず、実践の継続性を重視する。

職員研修

- ⇒ 定例の研修日は、全体研修を中心に進め共通理解をはかる場とする。
- ⇒ 全体研修では、授業研究を頻繁におこない理論の具現化と職員の指導力の向上をはかる。
- ⇒ 全体研修の研修内容は、研究を中心にすえながらも、人権、進路、生徒指導、性教育、情報教育等についても力を入れ、総合的な職員の指導力の向上をはかる。
- ⇒ 部会研修は、部会長の指示のもと月 1～2 回程度、適宜もつ。
- ⇒ 各部会は、具体的達成目標を示し、実践と検証を繰り返しながら、目標達成を目指す。

総合的な学習の時間

- ⇒ 総合的な学習の時間の学習活動内容が、教科の学習と匹敵もしくはそれ以上のレベルとなるよう研究実践につとめ教科横断的な発展的学習の場とする。
- ⇒ 総合的な学習の時間では、ディベートを学習手段の方法として取り入れ、各学年において研究実践を進める。

教科部会と学年部会の連携による実践

- ⇒ 全教科において、基礎基本の定着と個の能力に応じた指導の研究実践を進める。数学科、英語科においては、習熟度別編制による指導方法の研究実践を進める。
- ⇒ 5 教科（国数社理英）については、数値目標を設定して実践にあたる。
- ⇒ テストは、学年と教科部会の連携をもとに行う。結果については一覧を作成し、全職員に公開する。
- ⇒ 学力の向上を図るために、各教科部会と学年部会の連携を密にする。低学力生徒の学力向上と進路保障。朝学習、休業中の補習、基礎学力コンテスト、放課後の補習。また、学習の基盤となる、学級作り・学習習慣定着のための研究実践を行う。校内通信の公開・・・共通理解を図る手立ての一貫として、学年通信等、生徒保護者向けの通信は全職員に配布する。

実践内容の公開

- ⇒ 授業公開、及びホームページを通じての実践内容の公開

読書活動の推進

各教員の指導力向上を目指した研修会の実施・・・授業研究会

学力充実のために、各教科が取り組むべき課題として、指導形態の工夫、学習内容の工夫、授業構造の改革、教材開発等があるが、同時に各教科の教員には授業を創造的にデザインする力、生徒指導力、教科の専門性、高いレベルの教科指導力が要求される。こういった力が指導者になれば、いくら指導形態を変えてみたところで、期待できる効果は望めない。今年度は、個々の教員の指導力の向上と理論の具現化を授業で実践することをめざし、毎週月曜日の全体研修は、授業研究会を中心に行なうことにした。また、この授業研究会は、学力向上フロンティア事業の公開授業としても位置づけ、他校から授業参観者をつのり、情報交換しながら、授業研究会を重ねてきた。

数学科と英語科においては、学力向上フロンティア事業の公開授業と研究経過報告会を2学期に行った。英語科の研究経過報告会では、中学校だけではなく、小学校、高等学校からも多数の参加があり、小中高の連携視点にたった研究会を持つことができた。

(2) 研究の実際...英語科の実践内容について紹介する。

研究推進計画

年度	研究内容
平成十四年度	<ul style="list-style-type: none"> ● 年間指導計画の作成・・・単元ごとの到達目標・言語活動・評価規準を明確にしたもの ● 単元の指導計画の作成・・・単元ごとの到達目標・言語活動・評価規準を詳細に示したもの ● 評価計画の作成と授業実践を通しての評価方法の研究 ● 自主教材，ワークシートの作成・・・授業での言語活動が効果的に行えるよう教材，ワークシートの開発をはかる。 ● インターネット等の授業への利用方法の研究 ● 英文ホームページの作成と利用方法の研究・・・国際交流活動に向けて，本校や地域，日本の文化を海外の学校に紹介するホームページを作成する。 ● 選択英語の指導内容の研究 ● 基礎的コミュニケーション能力定着ための指導方法の研究 ● 効果的な授業形態と指導方法の研究と実践（TT等） ● 生徒の実態調査 ● 観点別の各学年に応じた到達度目標の作成 ● 保護者，生徒への啓蒙活動
平成十五年度	<ul style="list-style-type: none"> ● 年間指導計画の改訂 ● 単元の指導計画の改訂 ● 評価計画の改訂と授業実践を通しての評価方法の研究 ● 自主教材，ワークシートの作成と蓄積 ● 情報機器やインターネット等を利用した授業方法の研究 ● 英文ホームページのアップデートと利用方法の研究 ● 選択英語の指導内容の研究 ● 基礎的，実践的コミュニケーション能力定着ための指導方法の研究 ● 効果的な授業形態と指導方法の研究と実践（少人数クラス、習熟度別クラス、TT等） ● 生徒の実態調査

平成十六年度	<ul style="list-style-type: none"> ● 年間指導計画の改訂 ● 単元の指導計画の改訂 ● 評価計画の改訂と授業実践を通しての評価方法の研究 ● 自主教材，ワークシートの作成と蓄積 ● 情報機器やインターネット等を利用した授業方法の研究 ● 英文ホームページのアップデートと利用方法の研究 ● 選択英語の指導内容の研究 ● 基礎的，実践的コミュニケーション能力定着ための指導方法の研究 ● 発展的な学習内容と指導方法の研究 ● 効果的な授業形態と指導方法の研究と実践（少人数クラス、習熟度別クラス、TT等） ● 生徒の実態調査
--------	--

本年度の取り組み

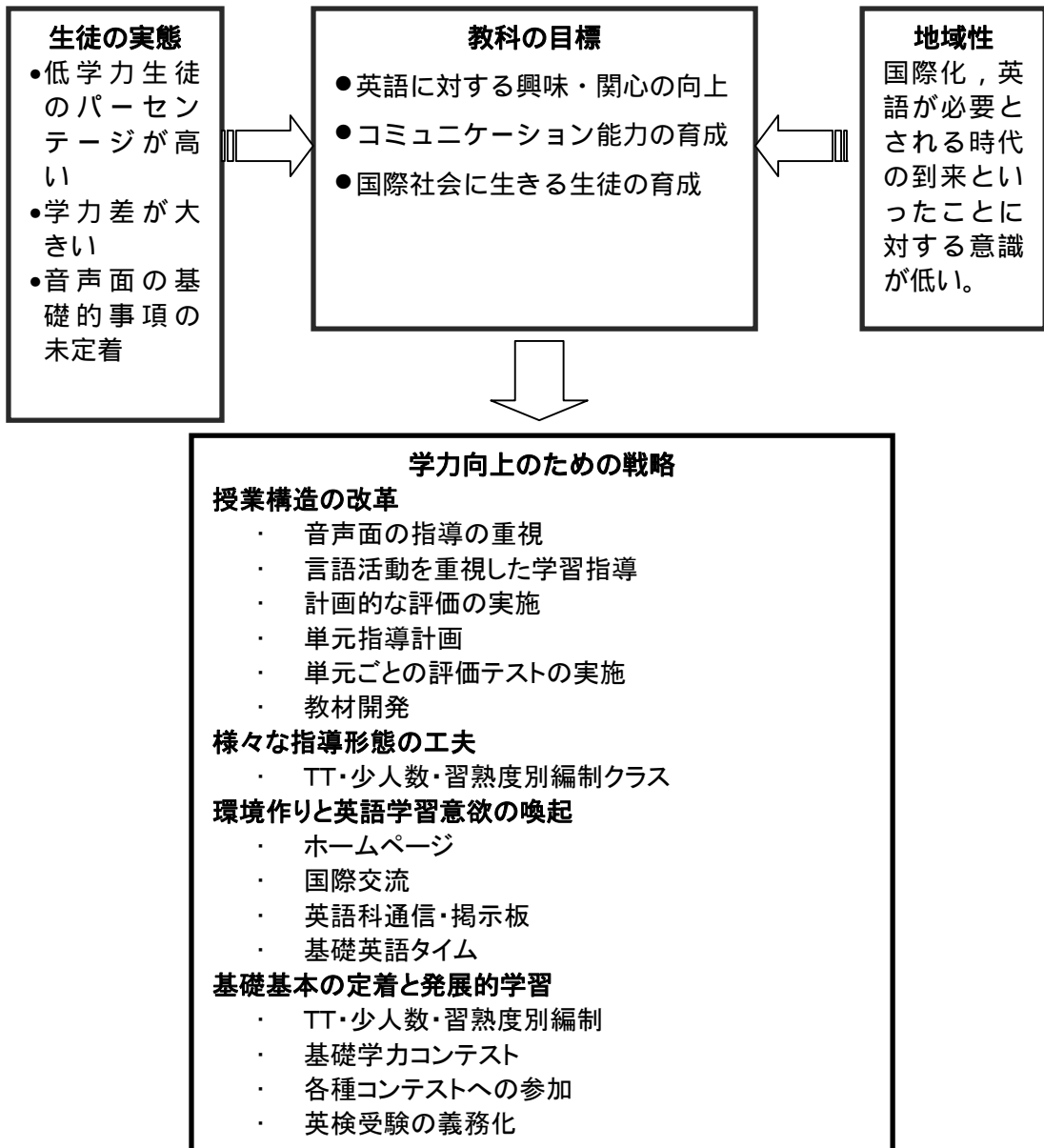
1. 効果的な授業形態と指導方法についての研究と実践
 - 少人数クラス、習熟度別クラス編成による授業の研究と実践
 - 授業構造の改革をめざした授業研究
2. 評価方法の研究と実践
3. 英文ホームページの更新とHPの英語学習への活用
 - 本校や地域，日本の文化を海外の学校に紹介するホームページの更新
 - 授業への利用
4. 国際交流活動
 - オンライン、オフラインによる交流活動の実施。
5. 低学力生徒への指導
 - 基本文例集の改定
 - 基本文コンテストの実施
 - 習熟度別クラスによる授業実践
 - 補充学習の実施
6. 他中学校、高校との連携・協力体制の強化
7. 自主教材・教具，ワークシート、DVDの作成
 - 授業での言語活動が効果的に行えるよう教材・教具，ワークシート、DVDの開発をはかる。
8. 英語検定試験や福井県英語スピーチコンテスト等、各種コンテストへの生徒の積極的参加
 - 英語検定試験では，2年生で4級，3年生で3級の合格を目標とし，自主的な受験をすすめる。
9. 英語教員の英語能力向上、及びメディア活用技術向上のための自己研修
 - 指導者自身の英語によるコミュニケーション能力の向上をめざし，自主研修を意欲的に行う。TOIECやTOEFL等の受験も自主的に行う。
10. 小学校英語活動への支援活動と連携

新教育課程の開始により町内の各小学校でも英語活動を開始する学校が増えてきた。小学校において音声を重視した英語活動を積極的におこなった児童が本校に入学してくることは，将来において本校生徒の英語運用能力向上をさらにはかるうえで，大変有益なことである。町内各小学校から要望があった場合には，以下の点について支援を積極的に行い，英語教育に関して小中の連携をはかっていく。

支援内容

 - ✓ 小学校英語活動のねらいや理論，教材についての情報提供
 - ✓ 英語活動を行うための技術指導

学力向上のための戦略



基礎基本の定着と発展的学習...コミュニケーション能力育成のための手立て

1. 習熟度別少人数編成クラスによる授業実践

- ねらい・・・生徒の習熟の程度に合わせて学習内容をデザインし，基礎的・実践的コミュニケーション能力の育成と定着をはかり，個々の能力のさらなる育成をはかる
- 習熟度別クラス編成による授業実践の方法
 1. 単元の学習を，通常のクラス編成で学習する。
 2. 単元の学習終了後に，単元の評価テストを行う。
 3. 単元の評価テストの結果により，習熟度別クラスによる授業を実施する。評価テストの結果が A 判定の生徒は発展コース， C 判定は基礎コースを履修する。 B 判定の生徒は発展コースか基礎コースのいずれかを選択して履修する。基礎コースは単元の基礎事項の復習を中心に，発展コースは発展的学習内容を中心に学習する。習熟度別編成ク

ラスによる授業は，単元毎に2～3時間行う。

2. 補助教材 基本文例集 English.com (上中中学校英語科 編集) の発行
■ 英語文例集“English.Com” (音声 CD 付 3枚組)

英語文例集は，1：文レベルの文例リスト(文法事項により分類) 2：文章レベルの文例リスト(意見文，日記など文章を書くための文例) 3：会話表現(スキット形式)の3つの部分から構成し，授業や補習，家庭学習での使用を目的に編集した。内容は基礎的事項から発展的学習内容まで幅広くカバーしている。英語学習のねらいや学習方法，評価方法についても説明をつけ，授業や補充学習の他，生徒の自学自習用の教材としても利用できるものとした。今年度より全生徒に配布し，授業等で利用しているが，基礎的な文法事項の習得，英作文能力の育成に役立っている。



3. ホームページを利用した学習活動

■ 海外への発信

日本の文化，生活様式を英文で紹介するHPを作成し海外への発信を続けている。生徒達は，日本の文化や生活様式を海外の生徒に伝えるために，英文でのHPを作成する。伝える相手が海外にいるということで，テーマによっては，難度の高い英文にも挑戦することになったにもかかわらず，それぞれの課題に対する生徒たちの意欲は十分である。また，英語がコミュニケーションの手段であるということを実験的に実感させることもできる。



http://www.wakasa-web.com/hibagon/jhs/culture/culture_top.htm

■ 掲示板を使用した交流活動

上中中学校の英語版HPに，交流掲示板を設置し，海外の生徒と意見や情報交換ができる場を与えている。この掲示板は，授業で利用する他，生徒が自由に自宅からでも書き込みができるようにしている。生徒達は，海外の生徒とコミュニケーションするために，自然と英語を使うことになり，言葉としての英語を掲示板を使いながら学習することができる。

http://freedom2.mitene.or.jp/~hibagon/bbs_jhs2/yybbs.cgi



■ 掲示板を個別学習指導
休日や長期休業中に生徒の学



習を手助けする手段の一つとして、英語科掲示板を設置し、インターネットを通して生徒の質問に答え、生徒の自宅学習を支援するシステムを作った。当初は、文法に関する質問が多かったが、英語の学習方法、書籍、英検の学習方法、進路に関する質問なども見られるようになり、用途が広がっている。

http://freedom2.mitene.or.jp/~hibagon/bbs_english_faq/yybbs.cgi

4. 単元到達度評価テストの実施と補充学習の実施

今年度から各学年とも、単元毎に、単元の到達度評価テストを実施している。2、3年生は、このテストの後、習熟度別編成クラスによる授業形態をとり、生徒の習熟の程度に合わせた学習機会を生徒に提供し、基礎基本の定着を目差した学習、発展的な学習を行なっている。1年生については、到達度評価テストの結果、単元の学習内容が未習熟の生徒を対象に補充学習を放課後行なっている。

5. 言語活動のためのワークシート、DVD 等視聴覚メディアの開発

生徒の英語運用能力を高めるためには、習熟の程度、知的興味関心、発達段階に応じた学習活動を行なっていく必要がある。本校英語科では、このような学習活動を生徒に提供するために、ワークシート、CD、DVD 等の教材開発を行ってきた。

6. 英語検定試験、各種コンテストへの積極的応募

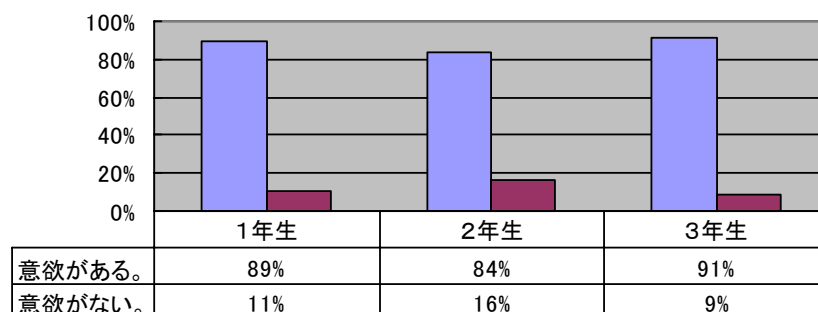
授業及び放課後等課外の時間を利用して、海外の学生との交流活動、英語検定試験、英語スピーチコンテスト・ホームページコンテストへの応募など、様々な学習機会を生徒の能力に応じて提供し、学習刺激を与えながら個々の生徒の能力の育成を目指して取り組んできた。

7. その他

- 長期休業中の補習...学年計画補習・英検受験級別補習・低学力生徒特別補習
- 基礎学力コンテスト...基本文型の習得
- NHK 新基礎英語タイム
- 英語科教員の担当学年制度と個別指導

(3) 研究の成果と課題...英語科の実践内容について紹介する。

英語学習に関する学習意欲

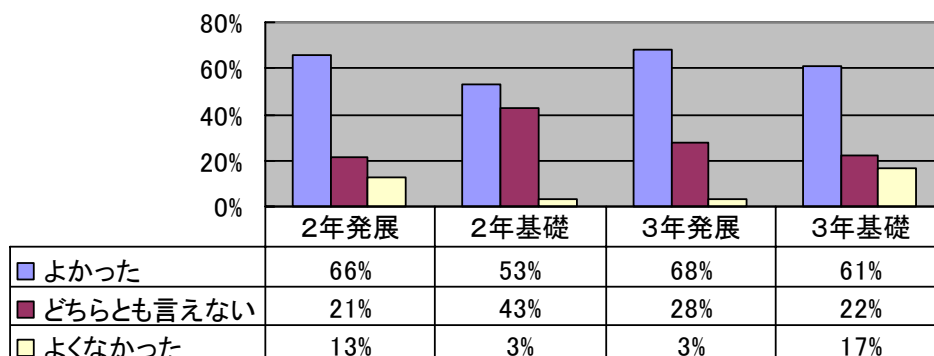


毎学期、生徒の学習意欲を調査している。グラフは昨年 11 月に実施した調査の結果である。学習に対して意欲を示す生徒の割合 80%以上が、今年度の目標であったが、どの学年も目標をクリアすることができた。学習内容が面白い、授業が理解できる、英語を話すことが楽しいといったことが英語学習に意欲を感じる理由として

いる生徒が多い。逆に、学習意欲が低い生徒は、授業の内容が理解できずつまらないとしている。これらの生徒は、習熟度別編成による授業でも学習指導の効果を上げることは難しく、学級担任とも連携をとり、個別指導を進めていく必要がある。

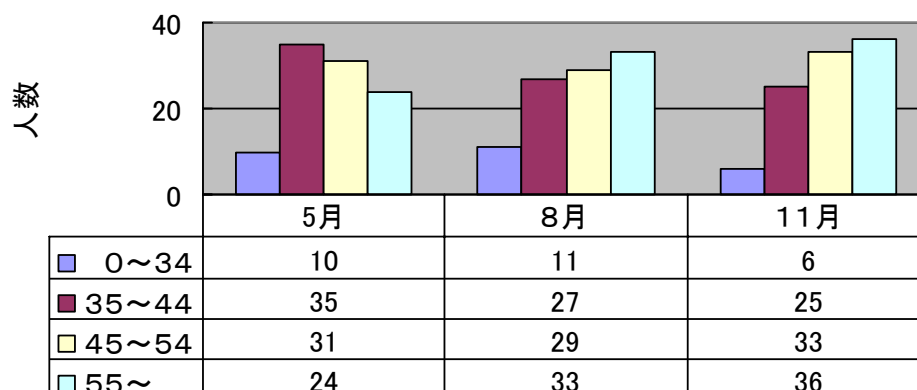
習熟度別編成クラスによる学習指導について

■ 習熟度別編成クラスによる授業についての生徒の反応



習熟度別編成による学習形態がよいとしている生徒の割合が多かった。よくなかったとしている生徒は、「学習内容が自分の力にあっていない。」点を、その理由にしている。クラス編成の方法について、来年度は更に研究を深めたい。

■ 3年生の到達度テストの結果・・・偏差値分布の推移



今年度4月から11月にかけての定期に実施している到達度評価テストの偏差値分布を見ると、低位の生徒の率が減り、逆に上位の生徒の率が増えていることがわかる。

■ 成果と課題

発展コースにおいては、かなりレベルの高いコミュニケーション活動ができ、能力の向上がはかれた。

基礎コースにおいても、学習意欲を喚起し、力を伸ばすことができた生徒も現れた。

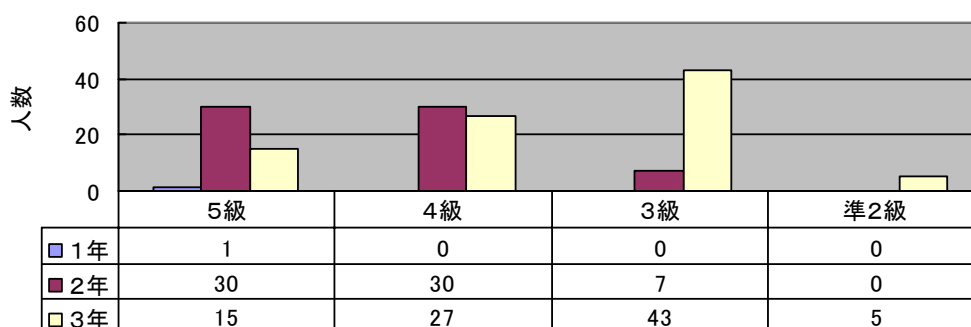
基礎コースの生徒に劣等意識が生じる危惧が感じられる。

学習習慣がまったくついていない生徒、英語に限らずすべての教科について基礎学力がまったくついていない生徒、生徒指導上問題を抱える生徒については、基礎コースの学習においても、指導がかなり困難であり、指導の効果を上げるためには学級担任との連携が必要である。

英語検定試験等の結果

授業及び放課後等課外の時間を利用して、海外の学生との交流活動、英語検定試験、英語スピーチコンテスト・ホームページコンテストへの応募など、様々な学習機会を生徒の能力に応じて提供し、学習刺激を与えながら個々の生徒の能力の育成を目指して取り組んできた。主な結果は以下の通りである。

- 英語検定団体賞受賞
- 国際コミュニケーション基金HPコンテスト優秀賞受賞（中2生徒）
- 福井県英語弁論大会3位入賞（中3生徒）
- 育英会レシテーションコンテスト（北陸3県）優秀賞受賞（中1生徒）
- 平成15年度 英語検定試験の受験結果 平成15年11月現在



(4) 研究の成果の普及の方策...英語科の実践内容について紹介する。

- 上中中学校 HP : <http://www.hokuriku.ne.jp/kaminaka/>
- 上中中学校 学力向上フロンティア HP
http://www.hokuriku.ne.jp/kaminaka/gakuryoku/gakuryoku_index.htm

上記ホームページにより、公開授業・研究会の日程、各研究部会、各教科の研究の成果、資料等の情報を提供している。学習指導案やワークシート等については、PDF形式のファイルにて配信している。

- 今年度の英語科の公開授業及び報告会は以下の通りである。

月	日	曜	備考
5	19	月	習熟度別編成クラスによる授業（3年生）
7	7	月	通常クラス（1年生）小浜第二中学校・高浜中学校から参観
11	5	水	習熟度別編成クラスによる授業（2年生）
11	28	金	<ul style="list-style-type: none"> ■ 英語科学力向上フロンティア事業 公開授業&研究報告会 習熟度別編成クラスによる授業（3年生） 通常編成クラス（2年生） 授業公開・研究会 参加校
			<p style="text-align: center;">県立高校</p> <p>若狭高等学校, 美方高等学校, 若狭東高等学校</p> <p style="text-align: center;">大飯郡</p> <p>高浜中学校, 大飯中学校, 神野小学校</p> <p style="text-align: center;">小浜市</p> <p>小浜中学校, 小浜第二中学校</p> <p style="text-align: center;">遠敷郡</p> <p>名田庄中学校, 鳥羽小学校, 野木小学校, 熊川小学校, 三宅小学校</p> <p style="text-align: center;">三方郡</p> <p>美浜中学校</p>

			松陵中学校，栗野中学校	敦賀市
			南越中学校，明道中学校	嶺北
			高松中学校	石川県
1	30	金	小浜市遠敷郡英語科研究会	
2	16	月	習熟度別編成クラス（3年生）	

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
- 7～9学級 10～12学級
- 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
- その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
- 外国語 音楽 美術 技術・家庭
- 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無

【特色ある取組事例として紹介したいポイント（都道府県教育委員会記入）】